

福島 SiC 応用技研株式会社

企業の基本情報

代表者：代表取締役社長 古久保雄二

進出時期：2014年に設立し、2017年から楡葉町内での事業開始。

従業員数：50名程度（うち楡葉町内に30名程度）

敷地面積：約8,800㎡

事業概要

シリコンと炭素で構成される「SiC半導体」を活用して、高電圧・大電流を扱う回路設計に係る研究、開発、製造を行っている。また、「SiC半導体」を応用して、X線治療に代わる最先端のがん治療（BNCT）を行うための機器の研究開発も行っている。

Q1.楡葉町に進出した経緯・進出の決め手を教えてください。

社長である古久保は、2011年の東日本大震災による原発事故を受けて、原子力工学を学んでいる世代の責任を感じ、福島復興に尽力するため被災地への進出を決意しました。その中でも楡葉町を選んだ決め手は、楡葉町役場の皆さんが、必要とする敷地の確保に尽力してくれたことが大きいと考えています。

Q2.立地して良かったと思う点を教えてください。

被災地ならではの補助金や税制優遇の制度があり、戸惑いもありましたが、楡葉町役場の皆さんが仕組み等について丁寧に教えてくれました。官と民の距離が近いことは、楡葉町の良い点だと思います。

また、今年、楡葉町内の団地に立地する企業が集う親和会も設立されました。町内企業同士で協力する体制づくりが進んでいることも、良い流れだと感じています。

Q3.地域連携・地域企業間連携の方向性について、どのようにお考えですか。

被災地の復興のために檜葉町に進出した経緯もあり、まずは檜葉町、そして浜通りで連携先の企業を見つけないかと考えています。

Q4. 檜葉町に期待すること・課題はありますか。

檜葉町は、気候が温暖で過ごしやすい場所です。東北に位置するけれど雪はあまり降らないし、雨も少ない。休日に遊ぶ場所が少ないと言われることもありますが、住めば都だと思えます。

最近、臨時駅として「J ヴィレッジ駅」が新しくできました。この駅が常時使えるようになると、大変便利だと思います。

Q5. 今後の事業展開について教えてください。

今後、檜葉町の工場で製品の量産を行っていく予定です。それに伴い、製造設備や雇用の拡大を行うことになるかと考えています。

Q6. 最後に、これから進出する企業へのメッセージをお願いします！

私たちは新しい技術を扱うベンチャー企業です。同じように新しいことに挑戦する企業に集まってもらうことで、檜葉町が「チャレンジできる町」として、日本国内で認知されるようになれば良いかと考えています。檜葉町から浜通りを盛り上げていきましょう！

お写真



(キャプション) 代表取締役社長 古久保雄二さん 檜葉町のおすすめスポットは、木戸駅前のホテル「バリュー・ザ・ホテル檜葉木戸駅前」。アクセスも良く、部屋もきれいで居心地が良い。